



## ベルベット リファインド カラー よくあるご質問 Q&A

### Q, ベルベツトリファインドカラーの特長は？

#### A, 簡単に挙げると下記の特長があります。

- ・アレルギーの原因となる「ジアミン」「アンモニア」「アミノフェノール」は100%不使用
  - ・グレイヘア（白髪染め）用の直接染料トリートメントカラー
  - ・直接染料にありがちな赤みが気にならない
  - ・オキシなしで染められる
  - ・染めれば染めるほど強く美しい髪になる
  - ・オプションでオキシや低濃度ジアミンも使用可能
- etc...

### Q, ベルベツトリファインドカラーはどういう仕組みで染まる？

#### A, ベルベツトリファインドカラーは「直接染料」という染料で出来ています。

直接染料は「HC染料」「塩基性染料」の2種類の染料があります。

髪のもとにも優しい染料で、どちらも染着力がそれほど強くないためこの2つを併せて使用しています。

酸化重合をするアルカリカラーとは違い、まるで絵の具のように見た目そのままの色で染まります。

#### ・HC染料（HC黄5などのように表記）

HC染料は電荷（プラス、マイナス）を持たないためイオン結合はしません。

分子が比較的小さいため、キューティクルの隙間から毛髪内部に侵入し、分子間力によって染着します。

#### ・塩基性染料（塩基性青99などのように表記）

塩基性染料は、酸性染料同様に分子が大きく毛髪内部には浸透せず、プラスの電荷を持っていて、毛髪表面のマイナス部分に吸着します。

毛髪のダメージ部分はマイナスの電荷を帯びるため、ダメージ部分に染着しやすい性質があります。

直接染料は皮膚についても取れやすいため、根元から染めることができます。

一般的な直接染料は色持ちが悪くすぐ落ちてしまったり、一度ではほとんど染まらなかったり赤みが強く出たりなど、特有の弱点があるのですがベルベツトリファインドカラーは一般的な直接染料と比べて色持ちがとてもよく、アッシュなどの寒色系の色味も可能です。

そして何よりも、染めれば染めるほど髪が美しく元気になるトリートメント効果が特徴です。

ベルベツトリファインドカラーはトリートメント効果に優れているため、リタッチだけでなく毎回毛先まで染めることでムラの無い髪色はもちろん、ハリコシツヤのある生き生きとした輝く髪の色を保つことができます。

### Q, ブラックで染めると真っ黒になる？

#### A, ブラック単体で染めても真っ黒にはなりません。

リファインドカラーのブラックは各ブラウンと混ぜた時により深みを与えるカラーとなっています。

白髪のギラツキを抑え、自然な地毛の色に近づくように様々な色が絶妙なバランスで配合されています。

ブラウン単体で染めた時と比べ、色に深みが出ます。

## Q, 普通のヘアカラーとはどう違う？

A, ベルベトリファインドカラーは広く一般的に使用されているヘアカラー（酸化染毛剤）とは特徴も染まる仕組みも全く異なります。

### ・ヘアカラー（酸化染毛剤）

色々な明るさや色に対応でき、大体2～3ヶ月は色持ちします。

アルカリ剤が髪を膨潤させ、酸化染料と過酸化水素が髪の中に浸透します。

過酸化水素は、メラニンを脱色するとともに、髪に浸透した染料を酸化します。

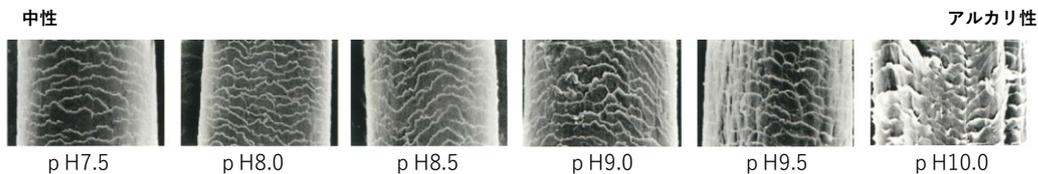
染料は酸化されると結合して発色します（酸化重合）。

ヘアカラーは明るさや色のバリエーションが多く、長年広く重宝されています。

ほとんどがアルカリ性で、アルカリ剤が必ず配合されています。

困ったことに、アルカリ剤は髪の毛の中に入ると簡単には出ていくことが出来ません。そのため残留アルカリとなって髪の毛に留まり、髪の毛を膨潤させ続けてしまいます。

膨潤した髪の毛は、シャンプーの度に内部の間充物質が流出しダメージが進むという悪循環を生みだします。



pH値が上がるにつれキューティクルが開いていき、pH10.0になると剥がれてきているのがわかります。ダメージ毛は慢性的にアルカリ性に傾いていることが多く、そこにアルカリ性の薬剤を使用してしまうと更にダメージが進んでしまいます。

また、染毛力には優れていますが、成分が体質や皮膚の状態によってはかぶれの原因になる場合があります。

〈酸化染毛剤の主な成分〉

パラフェニレンジアミン、メタアミノフェノール、パラアミノフェノール、トルエン-2, 5-ジアミンなど

これまでに何回もアルカリヘアカラーを使用してかぶれなかった人でも、ある日突然にアレルギー症状が出る場合があります。

そして、一度症状が出た人は、次に使用した場合、さらにひどい症状が出る場合があります、このアレルギーは一生続くともいわれています（ジアミンアレルギー）。

## Q, マニキュアとはどう違う？

A, 直接染料と同じく染着力は弱いですが、髪の毛には優しい染料という点では似ていますが性質に大きな違いがあります。

### ・マニキュア（酸性染料）〈赤2、紫401はどのように表記〉

マニキュアは酸性染料とも呼ばれ、酸性染料が主体となっています。酸性染料は分子が大きく、酸化染料のように毛髪内部には浸透しません。

マイナスの電荷を持っていて、毛髪表面のプラス部分に吸着します。頭皮に付くとなかなか取れません。